

平成 28 年度 第 2 回図書館セミナーを開催いたしました

医学図書館は平成 29 年 3 月 16 日 15:00-16:00 医学図書館 1 階ブラウジングコーナーにて中根裕信先生(医学科解剖学)を講師に図書館セミナー「みる」を開催しました。

初めに、常染色体優性遺伝病で結合組織の働きがよくない「マルファン症候群」のお話がありました。マルファン症候群の患者さんは、外見上、高身長でやせていて指が長く、特に骨や大動脈などの結合組織の機能不全により側弯や大動脈瘤などを起こす病気であるとのことでした。

次に、マルファン症候群であった可能性の高い音楽家としてニコロ・パガニーニを挙げられました。パガニーニはイタリアの著名なバイオリニストで、同時代の音楽家リストやシューベルト等に多大な影響を与えた音楽家でした。そのヴァイオリン演奏のすばらしさは、パガニーニの幼少からの不断的努力は言うまでもありませんが、細長い指と関節の柔軟な動きを存分に活かした演奏法で、他の演奏者には全く真似できないものでした。彼の演奏は、パガニーニが、まるで悪魔に魂を売り渡してヴァイオリン演奏の妙技を得たのではないかと思わせるほどであったそうです。これらの演奏を生み出す指使いは、クモのような細長い指と結合組織の異常による関節の柔軟性(マルファン症候群の特徴的な症状)による可能性があるとのことでした。

その他、マルファン症候群の方はその高身長等を活かしてスポーツ選手として活躍され、オリンピックのバレーボールでも活躍していたフローラ・ハイマン選手のエピソードに触れられました。ハイマン選手は松江で試合中に大動脈瘤破裂が原因で亡くなり、この事故により日本で救急医療の重要性が広く知られるようになったことも話されました。

参加者は、これらのエピソードを通じ、病気の症状から生まれる特異な才能もあり、病気のもたらす新たな側面を知ることができたと思います。

最後にジェネティック・ラウンズ(12 章、p203)という本よりマルファン症候群のために苦しんでいたアンダーソン氏のお話を紹介され、医療人をめざす学生さんには、患者さんの病気にだけ向き合うのではなく、「人」に向き合ってもらいたいと話されました。参加者からは「(こういった病気は)助産師を志望していますので、生まれてくる子供に起こりうるものであると思います。興味を持って理解を深めたいと思います。」等の声をいただきました。

医学図書館では、学生さんに人体への理解を深めていただき、幅広い教養と人間力を身に付けていただく契機となるよう今後もこのような企画を計画して参ります。

参考文献:Niccolò Paganini: the hands of a genius,Alessio Pedrazzini et al.Acta Biomed 2015;Vol.86,N.1:27-31



会場が今回から医学図書館ブラウジングコーナーになりました